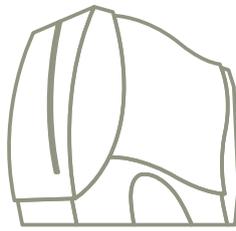


REPORT 2020

S o m p o M u s e u m o f A r t



2020年度は「SOMPO美術館」としてスタートした最初の年度です。新型コロナウイルスに見舞われながらも、7月の「開館記念展」開幕とともに美術館オープン。秋の収蔵品展「東郷青児 蔵出しコレクション」、冬の公募展「FACE 展2021」と、新しくなった展示室と館の施設をお楽しみいただきました。本号では新しくなった美術館と初年度の活動をご報告します。



左)「東郷青児メモリアル」。館内階段1~2階の踊り場に、当館と東郷との関係を表したパネルを設置。
右)美術館1階。



美術館正面前庭、ファン・ゴッホ《ひまわり》陶板複製画。

SOMPO美術館 オープン!

損 保ジャパン本社ビル42階で3年間にわたり活動してきた当館は、地上に建築した新たな建物へ移り、2020年7月10日、「SOMPO美術館」として開館しました。コロナ禍により約1か月半の開館延期を余儀なくされましたが、日時指定制の導入や検温・消毒・換気等、徹底したコロナ対策を講じることで、「開館記念展」を無事に開幕しました。当初夏に開催予定の「開館記念展II 秘蔵の東郷青児コレクション」展は開幕延期のため中止に、秋の「ゴッホと静物画—伝統から革新へ」展は一部作品輸送の目途が立

たず、代替案として「東郷青児蔵出しコレクション」展を11月から開催しました。

新美術館は、柔らかな曲線と開放的なガラス窓のエントランスを特徴とし、白を基調とした展示室、常設展示のファン・ゴッホ《ひまわり》は、映り込みの少ないドイツ製特注ガラスを採用し、その色彩や筆跡をより間近で鑑賞できるようになりました。今後も、多くの人でにぎわう新宿の「アートランドマーク」として芸術文化の発信を続けてまいります。



左) 本社ビルの裾広がりな形状に呼応するスリットライン、夜間はライトアップ。 右) 美術館のロゴをあしらったフラッグ。

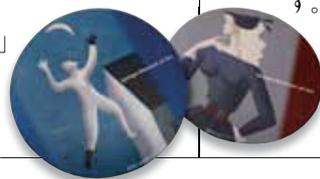


2階、Café du Musée。
コーヒーは400円から、ジュースは300円から。

ご紹介

Café du Musée

秋の「東郷青児 蔵出しコレクション」展では、東郷作品を使ったコースターをカフェ利用者に無料配布。



明

るく開放的な2階には、ミュージアムショップとカフェがあります。カフェの看板「Café du Musée」は東郷青児の直筆文字を再現したものです。外の景色を眺めながら、鑑賞後の余韻をお楽しみいただけます。
(※カフェの営業は、展覧会会期中の土日祝日11:00~16:00です。)



展示会場風景

SOMPO美術館開館記念展 珠玉のコレクション—いのちの輝き・つくる喜び

「SOMPO美術館開館記念展:珠玉のコレクション—いのちの輝き・つくる喜び」はコロナ感染



東郷青児《望郷》1959年 油彩・キャンバス 116.1×90.7cm

大防止のため、当初予定していた2020年5月から同年7月に開幕を延期し、約2か月間にわたって開催されました。当館は1976年、損保ジャパンの前身会社である安田火災海上の新宿本社ビル42階に「東郷青児美術館」として開館し、その後、数度にわたる社名変更に伴って館名を変更し、

展示会の開催とコレクションの拡充を行っ

てきました。「開館記念展」は、旧東郷青児記念損保ジャパン日本興亜美術館からSOMPO美術館への改称、新美術館棟への移転・オープンを記念したものです。

当館のコレクションは、東郷青児(1897-1978)の遺族から寄贈された作品、損保ジャパンからの寄託作品、そして美術家支援の一環として収集した作品の三つを柱としています。この収蔵作品の中から、「開館記念展」では常設展示のファン・ゴッホ《ひまわり》のほか、フランス近代絵画、当館開館に協力した画家、東郷青児を始めとする近現代の日本人画家による作品約70点を選び、6つのテーマに分けて紹介しました。大正・昭和期の日本画家、山口華楊による屏風絵《葉桜》を大規模な修復作業を完了した形で約10年ぶりに公開したほ



ビエール=オーギュスト・ルノワール《浴女》1892-93年頃
油彩・キャンバス 53.5×38.0cm

か、ルノワールの《浴女》も古いニス除去作業を経て、制作当時により近い、鮮やかな色彩を取り戻した姿で展示しました。加えて、東郷青児による《望郷》など優美な女性像の代表作の数々や、これまでのFACEグランプリ受賞作品が一堂に会する機会となりました。

【展示会データ】

展示会名 | SOMPO美術館開館記念展
珠玉のコレクション—いのちの輝き・つくる喜び
会期 | 2020年7月10日(金)～9月4日(金)
主催 | SOMPO美術館、読売新聞社
協賛 | 損保ジャパン

ファン・ゴッホ《ひまわり》の新展示

フインセント・ファン・ゴッホ《ひまわり》は1987年の収蔵以来、保管庫を兼ねたガラスケースに展示されてきました。2020年の「新美術館」への移転は、その展示環境を見直す機会となりました。原則として常時公開する作品であるため、《ひまわり》の展示は保存と見や

すさの両立が前提となります。そこで移転に先立ち、新しい設備(ガラスケース)における照明、作品を展示する壁面の色、作品を展示する高さをあらためて検討することとなりました。

まず作品にあてる光の照度(lux[ルクス])は、作品保存の観点から、それまでの上限200luxから120luxに変更しました。明るさは暗くなるものの、新設備では色温度(K[ケルビン])の調整が可能となるため、色温度は作品の再現性が高い3500Kに設定しました。壁の色は、照度が低くても作品が明るく映える、薄く紫がかかった、白に近い灰色を採用しました。色温度と壁の色は2019年4月、「旧美術館」における作品を使った実験で決定しました(写真1)。



写真2

作品を飾る高さについては2019年10月、「新美術館」の現場で模型を使って検証しました(写真2)。その結果《ひまわり》の新しい展示では、高身長・低身長の人でも、あるいは車椅子からでも見やすく、ガラス面の映りこみや展示ケース(奥行き1m弱)とのバランスなどを考慮し、作品の中心は床から157.5cmの高さにすることにしました(写真3)。

「旧美術館」では、《ひまわり》は奥行

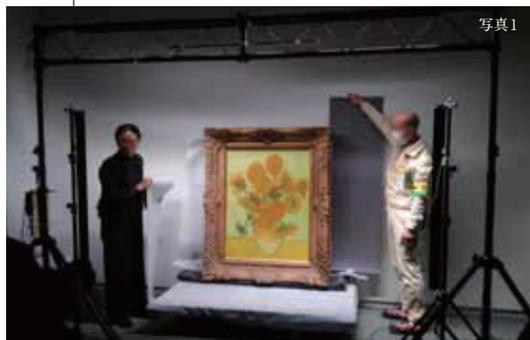


写真1

東郷青児 蔵出しコレクション ～異国の旅と記憶～

モダンな美人画で知られる洋画家・東郷青児(1897-1978)は、24歳から7年間でフランスを中心とするヨーロッパ各地で過ごし、63歳以降は毎年のように海外を旅してまわりました。20代の若き東郷は、詩人マリネッティや画家ピカソらと交流するなかで、表現主義や未来派、キュビズムなど西欧の前衛絵画に基づく自身の様式を模索し、また戦後の二科会会長時代には、海外美術団体との交換展の活動と並行して、サハラ砂漠や南米など各国へ足を伸ばしています。本展ではそうした東郷の「旅」を切り口に、油彩、素描、彫刻、デザイン、写真資料、そして東郷の蒐集品など、これまで展示する機会の少なかった収蔵品約140点を通じて、生涯、異国に興



東郷青児《ヴァンスの女》1972年 水彩・コンテ・紙

味を抱き続けた画家の足跡をたどりました。

全6章で構成する展示は、お馴染みの「青児美人」だけではありません。東郷が実際に愛用していた旅行鞆やパンフレット、イーゼル、画材類を紹介する「アトリエ・コーナー」に始まり、アール・デコ全盛期の留学時代に身に付けたモダンな感覚を生かした



展示室入口、「アトリエ・コーナー」(5階展示室)：東郷が実際に使用していたイーゼル、旅行鞆など。

本の装丁や着物の意匠、旅先の風景・風俗・現地の人々を捉えた素描群、さらに、東郷が蒐集し自身の制作の刺激とした宗教彫刻や外国人作家の作品など、様々な作品・資料類を展示。また各所にフотスポットを設け、来館者に展示会の思い出を持ち帰っていただく工夫もしました。「SOMPO美術館」となった館名からその名前は無くなりましたが、当館と縁の深い東郷青児の多彩な活動を、秘蔵の作品・資料によって改めて通観する、まさしく“蔵出し展”となりました。

【展覧会データ】

展覧会名 | 東郷青児 蔵出しコレクション
～異国の旅と記憶～

会 期 | 2020年11月11日(水)～2021年1月24日(日)
主 催 | SOMPO美術館・日本経済新聞社
協 賛 | 損保ジャパン



展示会場風景(3階展示室)

🔑 130cmのガラスケースに、下から仰ぎ見るような高さ(作品の中心が床から約165cmの高さ)で展示をしていました。「新美術館」ではあらたに、来館者の皆様にファン・ゴッホの《ひまわり》を身近に感じていただければ幸いです。

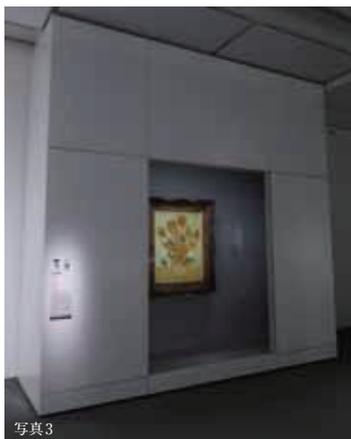


写真3

東郷青児の作品《夢の花》を使用した東郷BOXは東京會館のリーフパイとサブレが5枚

ずつ入った当館オリジナル箱の詰め合わせ。食べ終わった後には箱を小物入れなどに使用できます。



東郷BOX・パイサブレ 1700円(税込)

新 ミュージアムグッズのご紹介

ステンレスに食刻(エッチング)加工を施し、東郷青児《望郷》とゴッホ《ひまわり》をモチーフに繊細なデザインを表現したクリップです。2種類16個

入り。コピー用紙を10枚程度をとめることができます。



エッチングクリップ
東郷青児《望郷》
ファン・ゴッホ《ひまわり》
各600円(税込)



FACE 2021 グランプリ

魏嘉 Wei Jia 《sweet potato》



1988年 台湾生まれ 東京都在住
 2007年 Visual Communication Design金賞
 2012年 国立台湾芸術大学卒業
 2013年 GEISAI TAIWAN #2
 2018年 EYE FLOW愛福祿 (Taipei Artist Village)
 Taipei Illustration Fair 2018
 2019年 多摩美術大学大学院博士前期課程油画研究領域修了
 多摩美術大学台湾人連合作展2019「Crossover」
 Taipei Art Book Fair 2019
 シェル美術賞展2019
 2022年 東京藝術大学大学院博士後期課程修了予定



《sweet potato》2020年 パステル・スプレー・エアブラシ・キャンパス 130.3×162cm

9 回目となるFACE2021は、25歳以下の出品料を無料にしたことで前年比136%の1,193作品が出品されました。三次に及ぶ入選審査では、個人情報（作者名、作品名、年齢、性別、所属など）を伏せた作品本位の審査が行われました。審査員が作品1点ずつ真摯に対峙し、挙手で入選作品83点を決定しました。入選者は女性46名、男性37名、平均年齢35.3歳でした。

グランプリ受賞者の魏嘉さんは、台湾生まれで多摩美術大学大学院を経て、現在、東京藝術大学博士後期課程に在籍。題名のスイートポテト(さつまいも)は、台湾の形に似ているので命名したそうです。台湾には「蕃薯(さつまいも)精神」(堅忍不拔の精神)という言葉があります。魏さんは3月に台湾に一時帰国した後、コロナ禍で半年間足止めされ日本入国ができませんでした。この不安な時期、生まれ育った土地を再

認識し、家族や友達と食べた物のイメージを家の形の中に描き、訪れた市場名、美術館名、観光地名の文字を羅列しグラフィック表現を試みています。様々な技法で軽妙洒脱に現在の空気感を表現しています。

【展覧会データ】

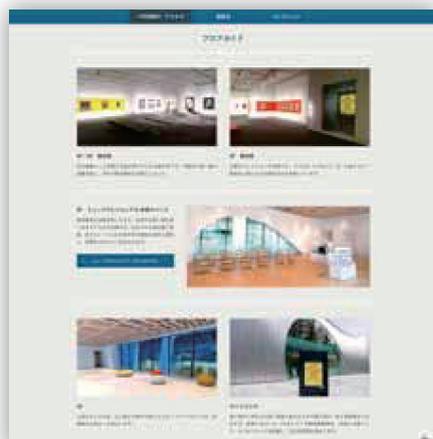
展覧会名 | FACE展2021
 会期 | 2021年2月13日(土)～3月7日(日)
 主催 | SOMPO美術館、読売新聞社
 協賛 | 損保ジャパン



HP トップページ

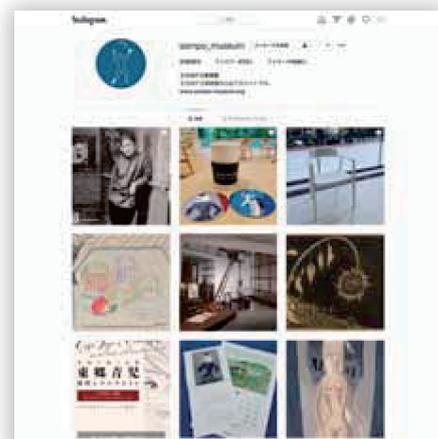
このたび、美術館ホームページを6年ぶりにリニューアルしました。コンセプトは「シンプル×モダン×楽しさ」。個々のコンテンツが持つ内容の「楽しさ」をストレートに訴求するため、ニュートラルなデザインとしています。一方で、トップページに大きなバナーを配置、お知らせの要素も持

ホームページ、リニューアル



HPの一部。

たせ、伝えたい点が認識されるよう工夫しました。また新たなコンテンツとして「今月の一品」も加わりました。コレクションから毎月



当館公式Instagramのページ。

一点を選んで紹介しています。SNSの運用も開始しましたので、ぜひチェックしてみてください。



SOMPO美術館
 Sompo Museum of Art

Twitter
 公式アカウント



@sompomuseum

Instagram
 公式アカウント



@sompo_museum

ホームページ



<https://www.sompo-museum.org/>

お問合せ先
 ハローダイヤル



050-5541-8600

SOMPO美術館レポート No.48

発行日 | 2021年3月(年1回発行)

編集・発行 | 公益財団法人 SOMPO美術財団

〒160-8338 東京都新宿区西新宿1-26-1

デザイン | 若林純子

印刷 | 大城印刷株式会社

この街には、《ひまわり》がある。